

シポレックス50の目地部は、防水性を確保するために、シポレックス50のパネル相互間の目地およびシポレックス50と他部材との取合い部にはシーリングを充填します。

2.シーリングのポイント

パネルの目地にはシーリング材を充填する

- ・雨がかりとなるようなパネル相互間の目地およびパネルと他部材の取合い部には、シーリング材を充填します。
- ・シーリング材は、アクリル系[※](JIS A 5758耐久性区分7020)以上のシーリング材を使用し、当社の推奨品(P.80関連資材リスト)をご使用ください。
- ・シーリング材の種類毎の一般的な特性を下表に示します。

種類	特性
シリコーン系シーリング材	耐久性が良い。仕上塗材が付着しにくい。汚染性がある。高価。外壁には使用しない。
変成シリコーン系シーリング材	伸び率が大きい。耐久性が良い。収縮率が小さい。高価。
ポリサルファイド系シーリング材	伸び率が大きい。耐久性が良い。収縮率が小さい。汚染性がある。種類によっては高モジュラス。高価。
アクリルウレタン系シーリング材	各種外装。低モジュラスタイプ。非汚染性。
ポリウレタン系シーリング材	伸び率が大きい。耐久性が良い。収縮率が小さい。低モジュラスタイプ。
アクリル系シーリング材	一成分型の水性シーリング材で取扱いが容易。経済性良好。低モジュラスタイプ。非汚染性。耐久性がやや劣る。比較的やせが大きい。

【注意】 ※鉄骨造の住宅・集合住宅・併用住宅等、瑕疵担保責任保険の対象建物は、ポリウレタン系シーリング以上をご使用ください。

シーリング材は低モジュラス品を選定する

- ・モジュラスの高いシーリング材を使用すると、目地部にひび割れ等の支障をきたす恐れがあります。シーリング材は、50%モジュラスにおいて0.3N/mm² (30N/cm²) 以下を目安として選定してください。

外装仕上げ材との相性にも配慮する

- ・シーリング材は、外装仕上げ材への付着性や汚染性にも配慮して選定してください。
- ・シーリング材は、表面に仕上塗材で仕上げを行うことが一般的ですが、シーリング材表面への塗装の有無により、選定すべきシーリング材が異なりますのでご注意ください。

他部材との取合い部には個別に注意が必要

- ・出隅部、入隅部および他部材との取合い部などに設ける伸縮目地は、目地の挙動に追従できる2面接着構造とするために、バックアップ材などを詰めてからシーリングを充填してください。
なお、パネル間の目地部は、ノンワーキングジョイントですので3面接着とすることも可能です。
- ・他部材の材質等の特性も考慮し、適切なプライマーおよびシーリング材を選定してください。

シーリング材の標準仕様を遵守する

- ・シーリング材性能を確保する為にプライマー等は、シーリング材メーカーの標準仕様を遵守してください。

シーリング材の選定目安

ここで示すシーリング材の選定目安は、「JASS 8 防水工事」に記載されている選定表から ALC に関するものを抜粋し、「JIS A 5758 建築用シーリング材」および同附属書の表記を使用し作成したものです。詳細については、それぞれの JASS もしくは当該材料メーカーの仕様を遵守してください。

シーリング材目安表1

JIS A 5758による呼び名	F-12.5E	F-20LM	F-25LM
シポレックス50のパネル相互間の目地	○	○	○
シポレックス50と他部材との目地	×	○	○

○：適している ×：適していない

シーリング材目安表2

	成分による分類 ^{※1)} JIS A 5758による 耐久性区分 シーリング表面 への塗装の有無	変成シリコーン系 ^{※2)}			ポリサルファイド系			アクリル ウレタン系	ポリウレタン系			アクリル系
		MS-1	MS-2		PS-1	PS-2		UA-2	PU-1		PU-2	AC-1
		8020	9030	8020	8020	9030	8020	9030	9030	8020	8020	7020
シポレックス50の パネル相互間の目地	有	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○
	無	○	○	○	×	○	○	×	×	×	×	×
シポレックス50と 他部材との目地	有	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○
	無	○	○	○	×	○	○	×	×	×	×	×

※1) MS-1:1成分形変成シリコーン系
MS-2:2成分形変成シリコーン系
PS-1:1成分形ポリサルファイド系
PS-2:2成分形ポリサルファイド系
UA-2:2成分形アクリルウレタン系
PU-1:1成分形ポリウレタン系
PU-2:2成分形ポリウレタン系
AC-1:1成分形アクリル系

※2) 外装仕上げ材によっては、軟化・変色を起こす場合があります。上記表によらず、外装仕上げ材のご確認を別途行ってください。

○：適している ×：適していない

3.内装仕上げのポイント

シポレックス50は、素地のままでは建物用途によっては下記の事項による支障が生じる恐れがあります。これらを防ぐためにも仕上げを施してください。

- パネル表面からの微量の粉落ち
- パネルの製造ロットによる多少の色違い
- パネル施工時の補修跡
- パネルに汚れが染み込んで除去できなくなる

シポレックス50壁室内側にも、仕上げを

- ・シポレックス50を外壁に用いた場合の内装仕上げは、石こうボード、合板などの内装ボード張りを標準とします。

パネルの通気性に配慮する

- ・シポレックス50は多孔質であり空気や湿気を含んでいるので、パネルの両面を通気性の低い仕上げとすると、仕上げ面に悪影響を及ぼすことがあります。
- ・シポレックス50内部面に防水紙を使用することがある場合には、透湿性を必要とすることから「透湿防水シート (JIS A 6111)」のご使用をお奨めします。

※このカタログに記載された商品は、品質向上を目的に予告なく設計仕様や取り扱いを変更することがありますので、ご了承ください。

COPYRIGHT©SUMITOMO METAL MINING SIPOREX ALL RIGHTS RESERVED.